

8. 多摩市の現状と医療の将来像

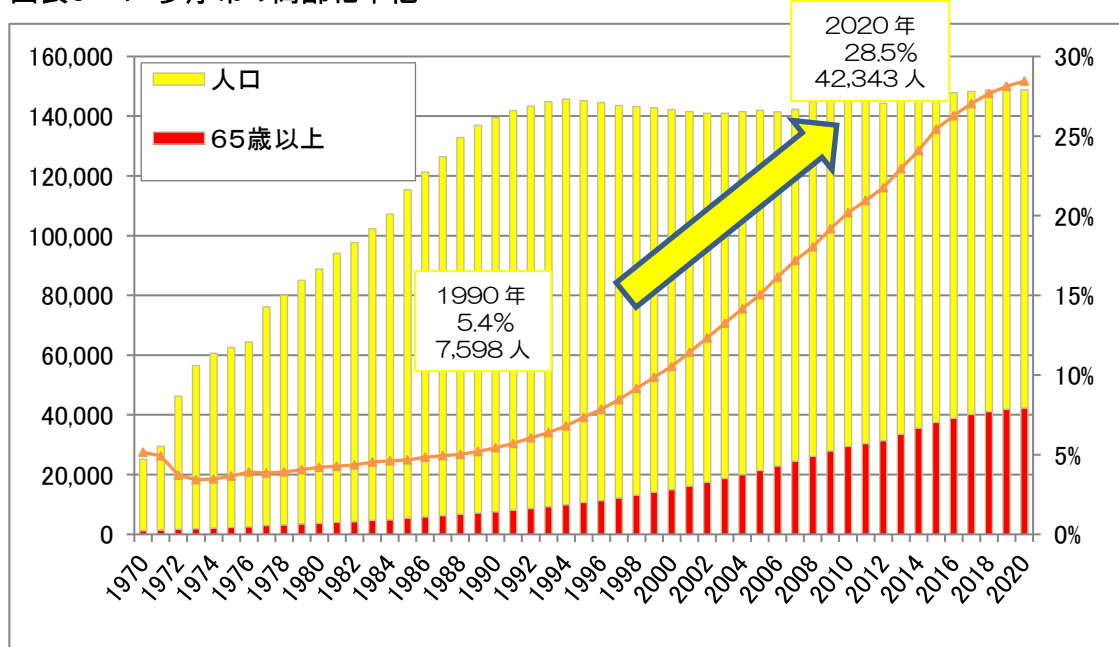
1 多摩市の現状

(1)急速に進む高齢化と後期高齢者の増加

2020年1月1日現在の実際の人口は148,823人で、年代別にみると、年少人口(0～14歳)が17,258人(総人口比11.6%)、生産年齢人口(15～64歳)が89,222人(同60.0%)、老年人口(65歳以上)が42,343人(同28.4%)となっています。

高齢化率についてみてみると1990(平成2)年に5.4%(高齢者数7,598人)であったものが、2020(令和2)年には28.5%(高齢者数42,343人)と30年で5倍以上(高齢者数34,725人増)となっており、急速な高齢化が進んでいます。(図表3-1)

図表3-1 多摩市の高齢化率他

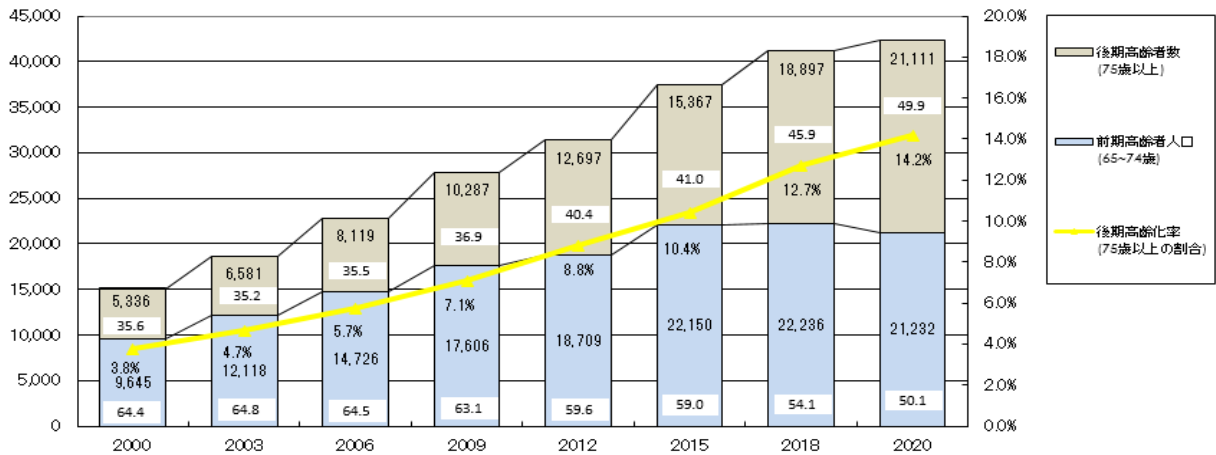


出典)多摩市人口統計(市民部市民課)を基に作成

また、高齢化の進展とともに前期高齢者(65歳～74歳)と後期高齢者(75歳以上)の割合も大きく変わって来ています。

2000年1月1日には前期高齢者の高齢者比64.4%(9,645人)、後期高齢者の高齢者比35.6%(5,336人)であったものが、2020年1月1日には、前期高齢者の同50.1%(21,232人)、後期高齢者の同49.9%(21,111人)とほぼ同じとなり、後期高齢者率も2000年の3.8%より2020年には14.2%と3.7倍なっています。今後さらに後期高齢者の割合が増えていくことが想定され、体力低下や寝たきりの状態にある高齢者に加え、認知症患者数も増加し、医療や介護のニーズの拡大が懸念されます。(図表3-2)

図表3-2 多摩市の後期高齢化率他



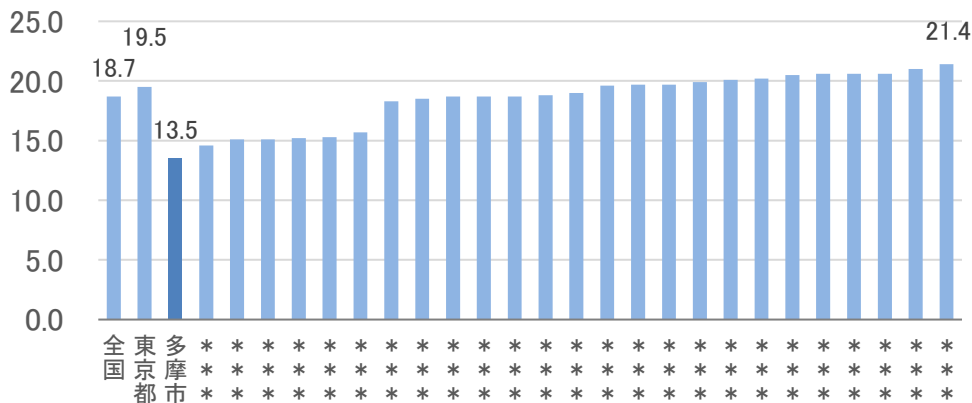
出典)多摩市人口統計(市民部市民課)を基に作成

2)要介護認定率

高齢化率が増加する一方で、本市の要介護認定率は2019年3月時点で、13.5%と東京都の平均19.5%、全国の平均18.7%と比べて低く比較的元気な高齢者が多い状況です。

要介護認定者を引き続き増やさないため、TAMAフレイル予防プロジェクト(TFPP)¹を始めとして、介護予防リーダー養成講座²、地域介護予防教室³、うんどう教室⁴などの様々な事業に取り組んでいます。(図表3-3)

図表3-3 要介護認定率の状況



¹ 大学生や介護予防リーダーと一緒に「フレイル(虚弱)」を予防・改善するポイントを学ぶ。平成30年度 市内28箇所で開催

² 介護予防リーダー養成講座を開催、卒業生は地域で介護予防活動 平成30年度で、111人が活躍中

³ 介護予防リーダーが活動し筋力アップ 平成30年度 市内で13箇所 参加人数延べ 20,083人

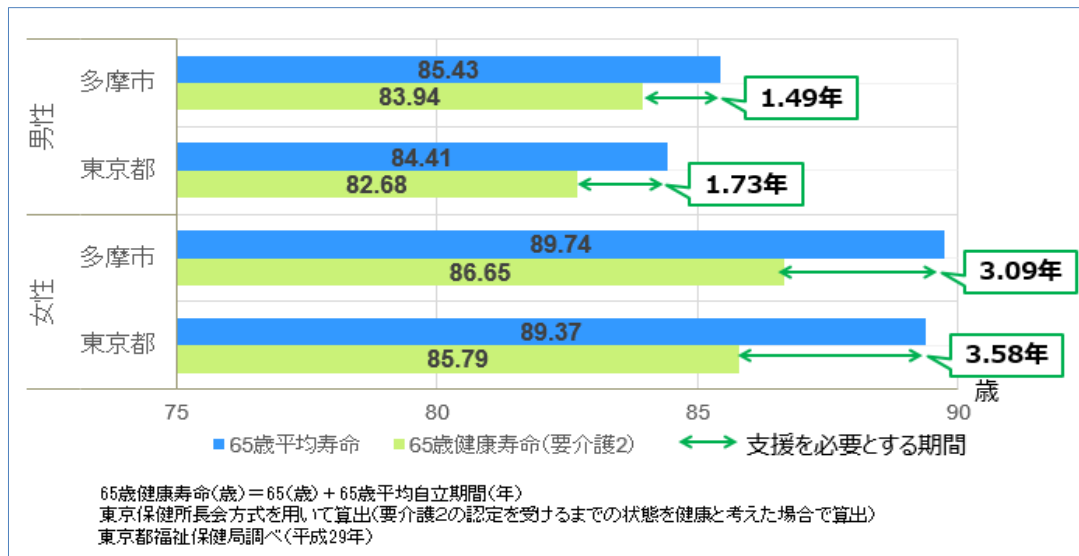
⁴ 公園にある遊具を使って、市内2箇所で開催。平成30年度 参加人数延べ 587人

4) 平均寿命と健康寿命

65歳平均寿命についても東京都の男性84.41歳、女性89.37に比べて、本市は男性85.43歳、女性89.74歳とそれぞれ上回っています。また、65歳健康寿命(要介護2)についても東京都の男性82.68歳、女性85.79歳に比べて、本市は男性83.94歳、女性86.65歳とそれぞれ上回るとともに65歳平均寿命と65歳健康寿命(要介護2)の差は男性1.49年、女性3.09年とこちらは東京都に比べて短くなっています。(図表3-4)

平均寿命と健康寿命との差は、日常生活に制限のある「不健康な期間」を意味しているため、疾病予防と健康増進、介護予防などによって平均寿命と健康寿命の差をさらに短縮することができれば、個人の生活の質の低下や医療費、介護給付費の増大を防ぐことができます。

図表3-4 要介護認定率の状況



2 多摩市の医療の将来像

(1) 多摩市の将来人口推計

本市の将来推計人口は、2018年の社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口」によれば、今後緩やかに減少していくと予測されています。一方、2020年1月1日現在の実際の人口は148,823人と同推計を上回っており、年代別にみると、年少人口(0~14歳)が17,258人(総人口比11.6%)、生産年齢人口(15~64歳)が89,222人(同60.0%)、老年人口(65歳以上)が42,343人(同28.4%)となっています。

全国的な人口減少が見込まれる中、本市では定住促進や雇用の創出、子育て支援などの施策を展開することで若い世代の流入と出生の増加を目指しており、こうした施策により、生産年齢人口及び年少人口については今後一定程度増加することも予想されます。このため、特に周産期・小児医療の推計については、今般算出する医療需要の推計を上回る伸びがあ

る可能性に留意が必要です。(図表3-5、3-6)

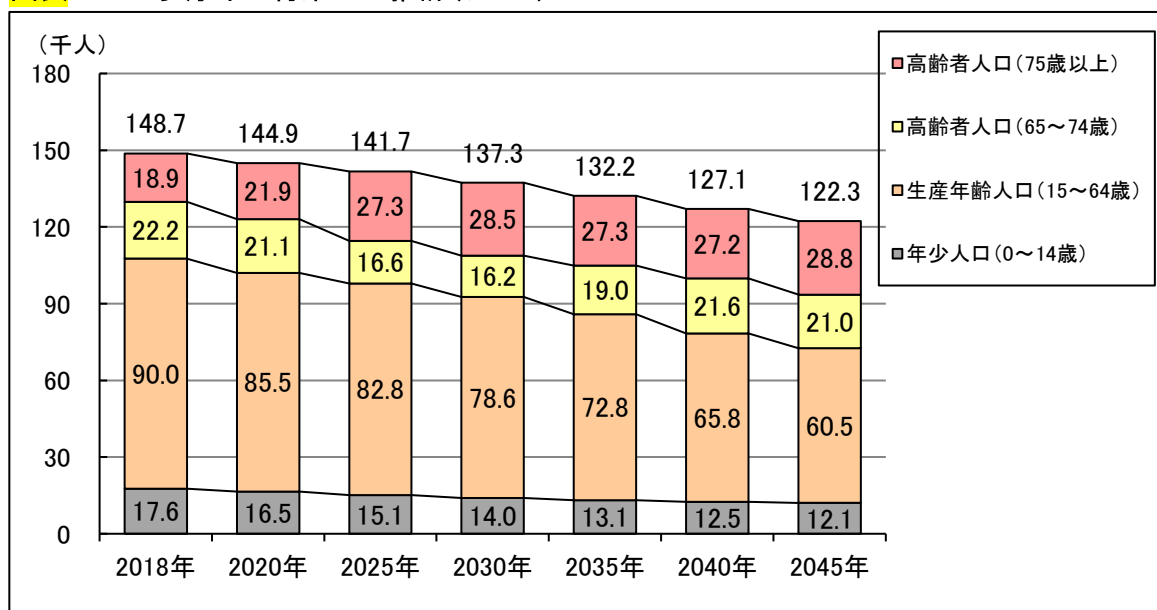
図表3-5 多摩市の将来人口推計

単位:人

	2018年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2025年 /2018年	2045年 /2018年
総数	148,724	144,909	141,746	137,313	132,191	127,068	122,287	95.3%	82.2%
年少人口(0~14歳)	17,624	16,466	15,110	14,001	13,078	12,524	12,053	85.7%	68.4%
生産年齢人口(15~64歳)	89,967	85,498	82,780	78,608	72,775	65,776	60,501	92.0%	67.2%
高齢者人口(65~74歳)	22,236	21,083	16,605	16,206	18,996	21,592	20,977	74.7%	94.3%
高齢者人口(75歳以上)	18,897	21,862	27,251	28,498	27,342	27,176	28,756	144.2%	152.2%

出典)国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)』より多摩市分を抜粋し作成

図表3-6 多摩市の将来人口推計(グラフ)



出典)国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)』より多摩市分を抜粋し作成

(2)「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」(以下、「医療・介護総合確保推進法」)

2014年6月、高齢化が進行する中で、社会保障制度を将来も維持していくために、医療・介護提供体制の構築や、医療・介護を対象とした新たな税制支援制度の確立、地域包括ケアシステムの構築などを行い、地域における医療と介護の総合的な確保を目的として、医療法、介護保険法等の関係法律について所要の整備が行われています。(図表3-7)

図表3-7 「医療・介護総合確保推進法」のポイント

1. 新たな基金の創設と医療・介護の連携強化(地域介護施設整備促進法等関係)
「病床の機能分化・連携」、「在宅医療の推進・介護サービスの拡充」、「医療従事者などの確保・育成」といった医療・介護の事業計画を各都道府県が作成するとともに、これらの事業を実施するため、消費税増税分を財源とした基金を各都道府県に設置する。
2. 地域における効率的かつ効果的な医療提供体制の確保(医療関係)
医療機関が医療機能の現状と今後の方向性を都道府県に報告する病床機能報告制度の運用を 2014 年度から開始する。都道府県はこれらの報告などを活用し、地域の医療提供体制のめざすべき姿を示す地域医療構想(ビジョン)を策定する。
3. 地域包括ケアシステムの構築と費用負担の公平化(介護保険法関連)
高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、在宅医療、介護連携などの地域支援事業(介護保険制度)の充実を図り、地域の包括的な支援・サービス提供体制を構築するとともに全国一律の予防給付を地域支援事業に移行し、多様化を図る。

※「医療・介護総合確保推進法」は、「医療法」や、「介護保険法」、「地域における公的介護施設等の計画的な整備等の促進に関する法律」などの一部改正から構成されている。

参考)厚生労働省「医療介護総合確保推進法に関する全国会議」資料(平成 26 年 7 月 28 日)

(3) 東京都地域医療連携構想

東京都においては、医療法第 30 条の 4 に基づき 2016 年 7 月に「東京都保健医療計画」に追記する形で「東京都地域医療構想」が策定されるとともに、医療法第 30 条の 14 に基づき「東京都地域医療構想」の実現に向けた取組について協議するため、「東京都地域医療構想調整会議」(以下、「調整会議」)が二次保健医療圏である構想区域ごとに設置されています。「調整会議」は、当該構想区域内の医療機関、医療関係団体、医療保険者及び区市町村等によって構成され、①地域の医療の状況、②地域の医療機能の確保、③その他地域医療構想の実現に向けた取組等が協議されています。⁵(図表3-8)

⁵ 東京都地域医療構想調整会議設置要綱(平成 28 年 10 月 18 日付 28 福保医政第 1104 号)

図表3-8 東京都二次保健医療圏域・三次保健医療圏域図



出典)「東京都地域医療構想」(平成 28 年 7 月) P44 より

また、医療法における地域医療構想の記載事項については、1.構想区域ごとに厚生労働省令で定める計算式により算定された①病床の機能区分ごとの将来の病床数の必要量、②将来の居宅等における医療の必要量、2.地域医療構想の達成に向けた病床の機能の分化及び連携の推進に関する事項と定められているとともに5疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病及び精神疾患)5事業(救急、災害、へき地、周産期及び小児)、在宅及びリハビリテーション医療の取組等についても記載がされています。(図表3-9)

図表3-9 地域医療構想の記載事項

【医療法における地域医療構想の記載事項】

1 構想区域ごとに厚生労働省令で定める計算式により算定された

- ① 病床の機能区分ごとの将来の病床数の必要量
- ② 将来の居宅等における医療の必要量

＜参考 病床の四つの機能区分＞

高度急性期機能	急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能
急性期機能	急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能
回復期機能	急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療や、リハビリテーションを提供する機能
慢性期機能	長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能

(詳細は P.28 参照)

2 地域医療構想の達成に向けた病床の機能の分化及び連携の推進に関する事項

出典)「東京都地域医療構想」(平成 28 年 7 月) P3 より

(4) 南多摩構想区域（二次保健医療圏域）の状況

南多摩構想区域における医療資源等の状況は次の通りであり、病院における病床の総数（人口10万対）は、1,217.1床と東京都全体942.1床、区部全体853.7床、多摩地域全体1,139.7床をいずれも上回っています。これは精神科病棟の病床数によることが大きいことが見受けられます。（図表3-10）

図表3-10 医療機関及び保健施設、病床数

4. 保健・医療・福祉資源-(1)医療機関及び保健施設②病床数

単位：上段一人、下段一人人口10万対

区分	病院						一般診療所 病床数	NICU 認定病床数	M-FICU 認定病床数
	総数	精神病床数	感染症病床数	結核病床数	療養病床数	一般病床数			
東京都	128,351	22,412	145	510	23,921	81,363	4,071	321	122
	942.1	164.5	1.1	3.7	175.6	597.2	29.9		
区部	80,032	6,946	99	173	13,247	59,567	2,913	258	98
	853.7	74.1	1.1	1.8	141.3	635.4	31.1		
多摩地域	48,265	15,466	44	337	10,674	21,744	1,094	63	24
	1,139.7	365.2	1.0	8.0	252.1	513.5	25.8		
八王子市	9,016	4,154	8	34	2,096	2,724	162	-	-
	1,559.7	718.6	1.4	5.9	362.6	471.2	28.0		
町田市	4,190	1,592	-	-	1,068	1,530	109	6	-
	966.4	367.2	-	-	246.3	352.9	25.1		
日野市	1,084	238	-	-	398	448	65	-	-
	579.1	127.2	-	-	212.6	239.4	34.7		
多摩市	2,248	852	-	-	250	1,146	28	-	-
	1,526.3	578.5	-	-	169.7	778.1	19.0		
福城市	931	322	-	-	319	290	38	-	-
	1,043.6	361.0	-	-	357.6	325.1	42.6		
南多摩保健所管内	4,263	1,412	-	-	967	1,884	131	-	-
	1,006.2	333.3	-	-	228.2	444.7	30.9		
南多摩保健圏域	17,469	7,158	8	34	4,131	6,138	402	6	-
	1,217.1	498.7	0.6	2.4	287.8	427.7	28.0		

出典)「南多摩保健医療圏域 保健医療福祉データ集 平成30年版」(平成31年3月 P31)より

また、「東京都地域医療構想」では、南多摩構想区域の特徴として慢性期以外の病院は、圏南多摩構想区域外への入院患者流出が高く、自構想区域完結率は低いことと分析しています。この状況は2025年における4機能ごとの推計患者数と流出入についても引き続き同様の状況となることを見込んでいます。（図表3-11、図表3-12）

図表3-11 2025年における推計患者数と流出入の状況(住所地から南多摩圏域外の医療機関への受診状況)

※▲は南多摩圏域外医療機関への流出

	患者住所地ベース (人/日)(A)	医療機関所在地ベース (人/日)(B)	1日あたりの流出入 (人/日)(B-A)
高度急性期	1,066.1	745.9	▲320.1
急性期	3,174.6	2,565.8	▲608.8
回復期	3,276.6	2,760.0	▲516.6
慢性期	2,947.9	4,217.3	1,269.4

出典)「東京都地域医療構想」(平成28年7月) P128~P136を参考に作成

図表3-12 南多摩構想区域の特徴

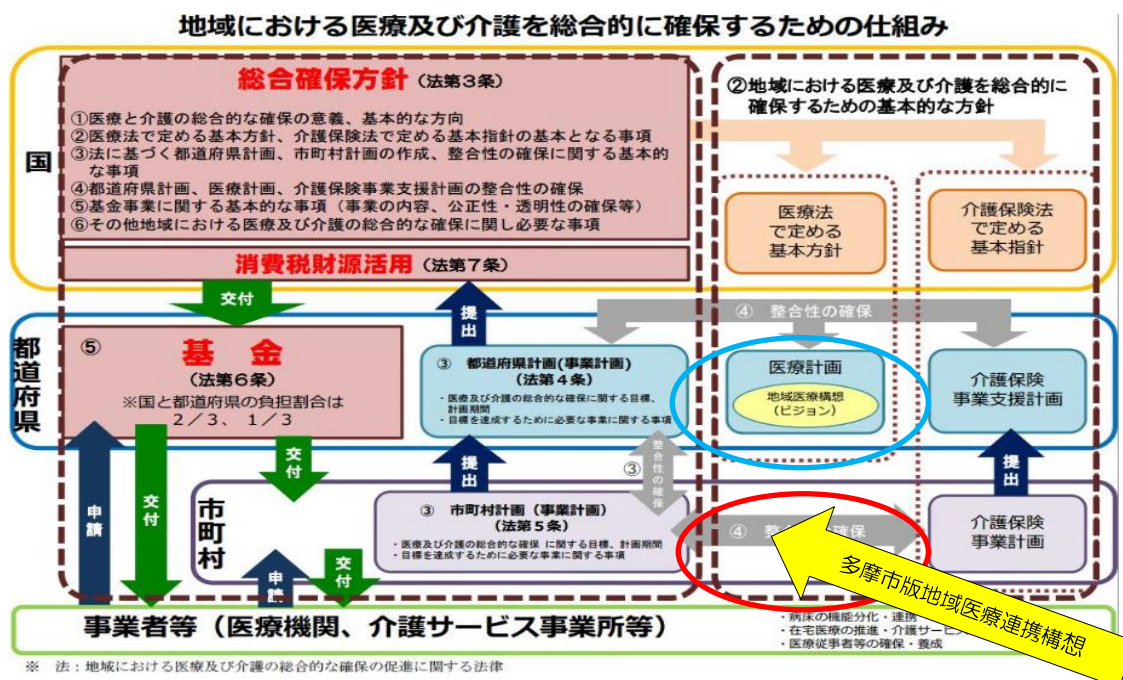
高度急性期機能	<ul style="list-style-type: none"> ・自構想区域完結率は58.3%で、都内隣接区域を含めても72.0%と島しょを除いて都内で最も低い。 ・都内の他の構想区域と異なり、高度急性期機能は近隣県（神奈川県）への流出が多い。
急性期機能	<ul style="list-style-type: none"> ・自構想区域完結率は69.3%で、都内隣接区域を含めても79.4%と島しょを除いて都内で最も低い。 ・都内の他の構想区域と異なり、高度急性期機能と同様に近隣県（神奈川県）への流出が多い。
回復期機能	<ul style="list-style-type: none"> ・自構想区域完結率は70.8%で、都内隣接区域を含めると80.2% ・都内の他の構想区域と異なり、高度急性期機能及び急性期機能と同様に近隣県（神奈川県）への流出が多い。 ・人口10万人当たりの回復期リハビリテーション病床数は、都平均の約9割
慢性期機能	<ul style="list-style-type: none"> ・都内医療機関における慢性期機能相当の患者の21.8%を診ており、自構想区域以外の住民が約半数を占める。 ・都内の他の構想区域とは異なり、慢性期機能は近隣県（神奈川県）から流入 ・高齢者人口10万人当たりの医療療養病床数は、都平均の約1.4倍、介護療養病床数は約1.1倍

出典)「東京都地域医療構想」(平成 28 年 7 月) P133 より

(5) 地域医療構想と「多摩市版地域医療連携構想」

多摩市の医療の将来像については、都道府県の地域医療構想に対して多摩市からの視点でも考えていく必要があります。このため、次のイメージで構想の協議をスタートしていきます。(図表3-13)

図表3-13 地域医療構想と「多摩市版地域医療連携構想」イメージ



3 多摩市における医療提供体制

(1) 入院医療

多摩市内には現在8か所の病院が存在し、うち2つが精神科のみを有する医療機関で医療機能別の許可病床数は以下の通りです。(図表3-14)

<一般病院>

- ◆高度急性期(30床):日医大永山病院、多摩南部地域病院
- ◆急性期(737床):聖ヶ丘病院、日医大多摩永山病院、多摩南部地域病院
- ◆回復期(134床):天本病院、厚生荘病院
- ◆慢性期(495床):天本病院、厚生荘病院、島田療育センター、

<精神科病院>

- ◆精神科病院(816床):桜ヶ丘記念病院、多摩中央病院

図表3-14 多摩市内病院病床数

<平成29年度>

医療機関名	許可病床数・稼働病床数									医療機能別許可病床数				
	一般病床		療養病床		うち、 医療療養病床		うち、 介護療養病床		精神病床	高度急性期許可病床数	急性期許可病床数	回復期許可病床数	慢性期許可病床数	休棟等許可病床数
	許可病床数	稼働病床数	許可病床数	稼働病床数	許可病床数	稼働病床数	許可病床数	稼働病床数	稼働病床数					
一般病院	日本医科大学多摩永山病院	401	401	-	-	-	-	-	-	24	377	-	-	-
	公益財団法人東京都保健医療公社多摩南部地域病院	318	287	-	-	-	-	-	-	6	312	-	-	-
	聖ヶ丘病院	48	48	-	-	-	-	-	-	-	48	-	-	-
	天本病院	95	95	48	48	48	48	-	-	-	-	93	50	-
	一般財団法人愛生会 厚生荘病院	41	41	202	202	104	104	98	98	-	-	-	41	202
	社会福祉法人日本心身障害児協会 島田療育センター	243	243	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	243
精神科	社会福祉法人 桜ヶ丘社会事業協会 桜ヶ丘記念病院	-	-	-	-	-	-	-	-	467	-	-	-	-
	医療法人社団 聖美会 多摩中央病院	-	-	-	-	-	-	-	-	349	-	-	-	-
(報告医療機関 小計)		1,146	1,115	250	250	152	152	98	98	816	30	737	134	495

出典)多摩市版地域医療連携構想に向けたデータ分析 概要版 P7

入院医療については、高度急性期・急性期を担う日医大永山病院と南部地域病院が中核的な役割を担っており、特に、救急については、救命救急センターのある日医大永山病院の役割が大きい状況です。また、南多摩圏域でも救命救急センターがあるのは、八王子市と多摩市のみです。

(2) 在宅医療

診療所(クリニック)については、有床3施設を含めて59の診療所(内科系のみ)があり、14

の訪問看護ステーションがあります。

本市の在宅医療において、その役割を積極的に担っている医療機関や訪問看護ステーション等として次のようなタイプがあげられます

- ◆地域における診療体制をグループ全体で構築している機関
 - ・訪問診療を中心に置き、自ら 24 時間対応体制の在宅医療を進めている。
- ◆他医療機関の支援を行っている機関
 - ・他診療所を含むネットワークを独自に構築し在宅医療を進めている。
- ◆医療・介護現場での多職種連携の支援を行っている機関
 - ・訪問看護ステーションの訪問看護師等を中心に多職種連携のネットワークを進めている。

(3) 受療動向

1) レセプト分析

「多摩市版地域医療連携構想」の策定のため、その基礎データとして 2019 年 3 月に市独自に様々な医療データ(レセプト等)を分析し「多摩市版地域医療連携構想のためのデータ分析」をまとめました。本市の受療動向を本データ分析より次にみます。(図表3-15)

図表3-15 多摩市民健康保険制度加入状況(全年齢)

●健康保険制度加入状況											
	総人口	国民健康保険(A)		後期高齢医療制度(B)		協会けんぽ(C)		計		※参考:健康保険組合・共済組合(D)	
		人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
男	72,927	16,125	22.1%	8,357	11.5%	14,096	19.3%	38,578	52.9%	34,349	47.1%
女	75,818	18,134	23.9%	11,209	14.8%	13,498	17.8%	42,841	56.5%	32,977	43.5%
計	148,745	34,259	23.0%	19,566	13.2%	27,594	18.6%	80,825	54.3%	67,326	45.3%
	2019.1.1 現在	2018.12.31 現在		2019.1.1 現在		2017.4.1~ 2018.3.31 月平均 (端数四捨五入) 例年7月に前年度分				※総人口-((A)+(B) +(C))による推計	

出典) 多摩市版地域医療連携構想に向けたデータ分析 概要版 P3

- ① 国民健康保険、後期高齢者医療制度のレセプトから現状の疾病を分析(図表3-16)
- 入院レセプトについては、全体で男性では「循環器系の疾患」「新生物」が多く、女性では「精神及び行動の障害」「循環器系の疾患」のレセプト件数が多い。
- 入院外レセプトでは男女ともに「循環器系の疾患」「内分泌、栄養及び代謝疾患」が多い。

図表3-16 入院・入院外別、男女別、疾病分類別 レセプト件数

病名(大分類)－基礎病名	入院		入院外	
	男性	女性	男性	女性
総数	12,375	12,588	245,493	319,370
1 感染症及び寄生虫症	178	192	7,103	7,797
2 新生物	2,184	1,505	18,082	14,911
3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	54	76	1,208	1,794
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	284	408	36,276	47,480
5 精神及び行動の障害	1,464	2,022	11,068	17,150
6 神経系の疾患	1,183	1,244	8,864	13,112
7 眼及び付属器の疾患	605	632	13,355	20,207
8 耳及び乳様突起の疾患	23	63	2,221	3,743
9 循環器系の疾患	2,257	1,996	61,547	70,281
10 呼吸器系の疾患	903	668	18,687	23,758
11 消化器系の疾患	1,087	786	21,941	29,908
12 皮膚及び皮下組織の疾患	82	111	11,135	12,356
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	410	812	12,514	33,775
14 腎尿路生殖器系の疾患	612	433	11,662	8,171
15 妊娠、分娩及び産じょく	0	81	11	174
16 周産期に発生した病態	31	15	47	82
17 先天奇形、変形及び染色体異常	100	44	773	660
18 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	239	231	4,869	7,211
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	679	1,269	4,130	6,800

出典)多摩市版地域医療連携構想に向けたデータ分析 概要版 P5

② 多摩市外への流出状況(入院・入院外)

- 平成 29 年度診療分の国保・後期高齢者のレセプトをみると、入院レセプトでは、南多摩医療圏外へ 28.3%、多摩市外には 46.9%が流出しています。
- 入院外レセプトでは、南多摩医療圏外に 16.4%、多摩市外には 23.9%が流出しています。(図表3-17)

図表3-17 多摩市外への流出状況

期間：平成29年4月～平成30年3月 単位：件/年

		入院				入院外				合計	率(%)
		男性	女性	入院計	率(%)	男性	女性	入院外計	率(%)		
南多摩医療圏	13224 多摩市	5,527	5,335	10,862	53.1%	184,411	274,414	458,825	76.1%	469,687	75.3%
	13201 八王子市	535	487	1,022	5.0%	6,624	7,147	13,771	2.3%	14,793	2.4%
	13212 日野市	194	173	367	1.8%	3,779	6,004	9,783	1.6%	10,150	1.6%
	13225 稲城市	363	470	833	4.1%	4,943	6,272	11,215	1.9%	12,048	1.9%
	13209 町田市	733	844	1,577	7.7%	4,839	5,510	10,349	1.7%	11,926	1.9%
	計	7,352	7,309	14,661	71.7%	204,596	299,347	503,943	83.6%	518,604	83.2%
南多摩医療圏外の二次医療圏	1301-1307 東京23区	642	613	1,255	6.1%	16,442	17,663	34,105	5.7%	35,360	5.7%
	1308-1313 三多摩・島しょ	1,529	1,595	3,124	15.3%	14,700	18,668	33,368	5.5%	36,492	5.9%
	1404-1412 神奈川	483	467	950	4.6%	5,670	7,696	13,366	2.2%	14,316	2.3%
	その他	245	214	459	2.2%	7,510	10,704	18,214	3.0%	18,673	3.0%
	計	2,899	2,889	5,788	28.3%	44,322	54,731	99,053	16.4%	104,841	16.8%
合計		10,251	10,198	20,449	100.0%	248,918	354,078	602,996	100.0%	623,445	
多摩市外 流出率(%)		46.1%	47.7%	46.9%		25.9%	22.5%	23.9%		24.7%	
南多摩医療圏外流出率(%)		28.3%	28.3%	28.3%		17.8%	15.5%	16.4%		16.8%	

出典) 多摩市版地域医療連携構想に向けたデータ分析 概要版 P6

③ 疾病別流出状況

・年間1,000件以上のレセプト件数があり、南多摩医療圏外への流出率が高い疾患は、「筋骨格系及び結合組織の疾患」(43.2%)、「腎尿路生殖器系の疾患」(39.1%)、「循環器系疾患」(32.5%)、「新生物」(30.0%)となっています。(図表3-18)

図表3-18 疾病別流出状況

期間：平成29年4月～平成30年3月 単位：件/年

		入院											計
		レセプト 件数	(%)	新生物	精神及び行動の 障害	神経系の疾患	眼及び付属器の 疾患	循環器系の疾患	呼吸器系の疾患	消化器系の疾患	結合組織の疾患 筋骨格系及び	腎尿路生殖器系	
南多摩医療圏	多摩市	10,862	53.1%	2,254	2,005	1,238	878	2,052	835	1,153	516	390	13,252
	八王子市	1,022	5.0%	104	364	160	*	248	33	40	30	57	1,192
	日野市	367	1.8%	23	*	112	*	57	31	15	18	17	339
	稲城市	833	4.1%	109	167	74	23	120	104	87	57	85	1,003
	町田市	1,577	7.7%	94	310	167	33	395	219	123	73	87	1,936
	計	14,661	71.7%	2,584	2,856	1,751	941	2,872	1,222	1,418	694	636	17,722
南多摩医療圏外の二次医療圏	東京23区	1,255	6.1%	476	121	73	115	222	48	111	145	60	1,633
	三多摩・島しょ	3,124	15.3%	452	376	422	148	776	224	267	229	250	4,018
	神奈川	950	4.6%	117	77	108	21	277	51	61	103	85	1,080
	その他	459	2.2%	60	56	72	12	106	26	16	51	14	500
	計	5,788	28.3%	1,105	630	676	296	1,381	349	455	528	409	7,241
合計		20,449	100.0%	3,689	3,486	2,427	1,237	4,253	1,571	1,873	1,222	1,045	24,963
多摩市外流出率(%)		46.9%	-	38.9%	42.5%	49.0%	29.0%	51.8%	46.8%	38.4%	57.8%	62.7%	46.9%
南多摩医療圏外流出率(%)		28.3%	-	30.0%	18.1%	27.9%	23.9%	32.5%	22.2%	24.3%	43.2%	39.1%	29.0%

出典) 多摩市版地域医療連携構想に向けたデータ分析 概要版 P6

④ 訪問診療

○患者の住所地をベースに、患者がどこに所在する医療機関から訪問診療を受けているのかについて

- ・本市に住んでいる患者が、多摩市の医療機関から訪問診療を受けた件数は、5,692件(58.15%)、同八王子市の医療機関からは37件(0.38%)、同町田市の医療機関からは591件(6.04%)、同日野市の医療機関からは1,108件(11.32%)、同稲城市の医療機関からは127件(1.30%)、同東京都区部の医療機関からは654件(6.68%)、同西多摩・北多摩の医療機関からは345件(3.52%)、同都外の医療機関からは1,235件(12.62%)となっています。(図表3-19)

図表3-19 訪問診療の受療データ(多摩市)

<患者住所地ベース>

	多摩市	八王子市	町田市	日野市	稲城市	東京都区部	西多摩 北多摩	埼玉県	千葉県	神奈川県	市外計	総計
訪問診療(居宅)	3,646	26	301	79	24	233	103	0	12	39	817	4,463
訪問診療(同一建物)	2,046	11	290	1,029	103	421	242	118	11	1,055	3,280	5,326
合計	5,692	37	591	1,108	127	654	345	118	23	1,094	4,097	9,789
	58.15%	0.38%	6.04%	11.32%	1.30%	6.68%	3.52%	1.21%	0.23%	11.18%	41.85%	100.00%

出典)訪問診療の受講動向データ

○医療機関の所在地をベースに、どの地域で訪問診療を実施しているかについて

- ・本市に所在する医療機関が、本市に住んでいる患者へ訪問診療を実施した件数は、5,692件(28.15%)、同八王子市の患者へは3,604件(17.83%)、同町田市の患者へは1,880件(9.30%)、同日野市の患者へは775件(3.83%)、同稲城市の患者へは334件(1.65%)、同東京都区部の患者へは1,393件(6.89%)、同西多摩・北多摩の患者へは4,146件(20.51%)、同都外への患者へは2,394件(11.84%)となっています。本市以外の患者への訪問診療は合計14,526件(71.85%)と比較的高い数字になっています。(図表3-20)

図表3-20 訪問診療の受療データ(多摩市)

<医療機関所在地ベース>

	多摩市	八王子市	町田市	日野市	稲城市	東京都区部	西多摩 北多摩	埼玉県	千葉県	神奈川県	市外計	総計
訪問診療(居宅)	3,646	1,043	243	95	15	81	495	0	0	70	2,042	5,688
訪問診療(同一建物)	2,046	2,561	1,637	680	319	1,312	3,651	103	106	2,115	12,484	14,530
合計	5,692	3,604	1,880	775	334	1,393	4,146	103	106	2,185	14,526	20,218
	28.15%	17.83%	9.30%	3.83%	1.65%	6.89%	20.51%	0.51%	0.52%	10.81%	71.85%	100.00%

出典)訪問診療の受講動向データ

4 多摩市の医療の将来像～健幸まちづくりの推進とともに～

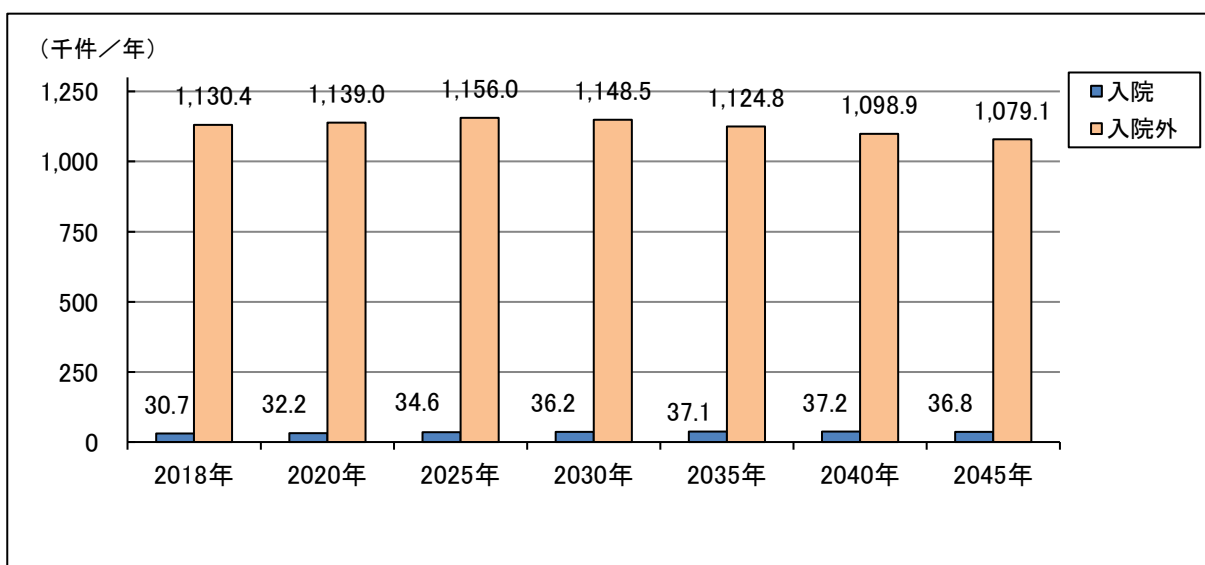
(1) 医療需要の将来推計

1) 入院・入院外別、疾患別の将来需要推計

入院レセプト件数は、2018年の30,694人に対して2045年は36,755人と19.7%増加する見込みです。また、入院外レセプト件数については、1,130,380人から1,079,115人と4.5%程度減少する見込みです。(図表3-21)

図表3-21 入院・入院外別の将来需要推計

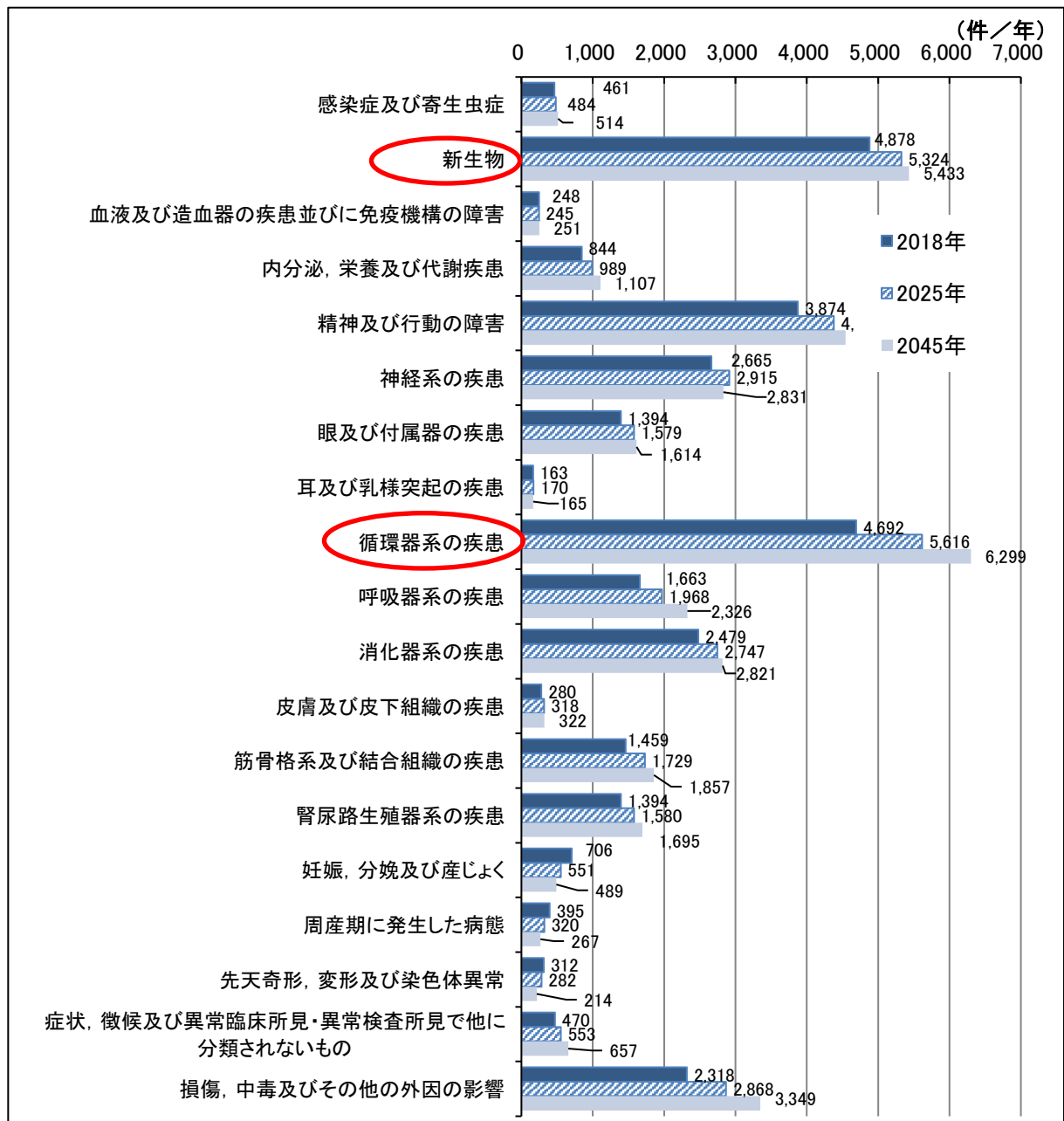
	2018年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	単位:件/年	
								2025年/2018年	2045年/2018年
入院	30,694	32,210	34,618	36,206	37,055	37,170	36,755	112.8%	119.7%
入院外	1,130,380	1,138,956	1,156,044	1,148,467	1,124,844	1,098,925	1,079,115	102.3%	95.5%



出典)多摩市版地域医療連携構想に向けたデータ分析 概要版 P6

また、疾患別の入院レセプト件数(2018年)の内訳をみると、「新生物」が4,878件と最も多く、次いで「循環器系の疾患」4,692件、「精神及び行動の障害」3,874件となっています。「妊娠、分娩及び産じょく」「周産期に発生した病態」「血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害」「先天奇形、変形及び染色体異常」以外の全ての項目で2045年にかけて増加する見込みで、2025年には「循環器系の疾患」が「新生物」を上回る見込みです。(図表3-22)

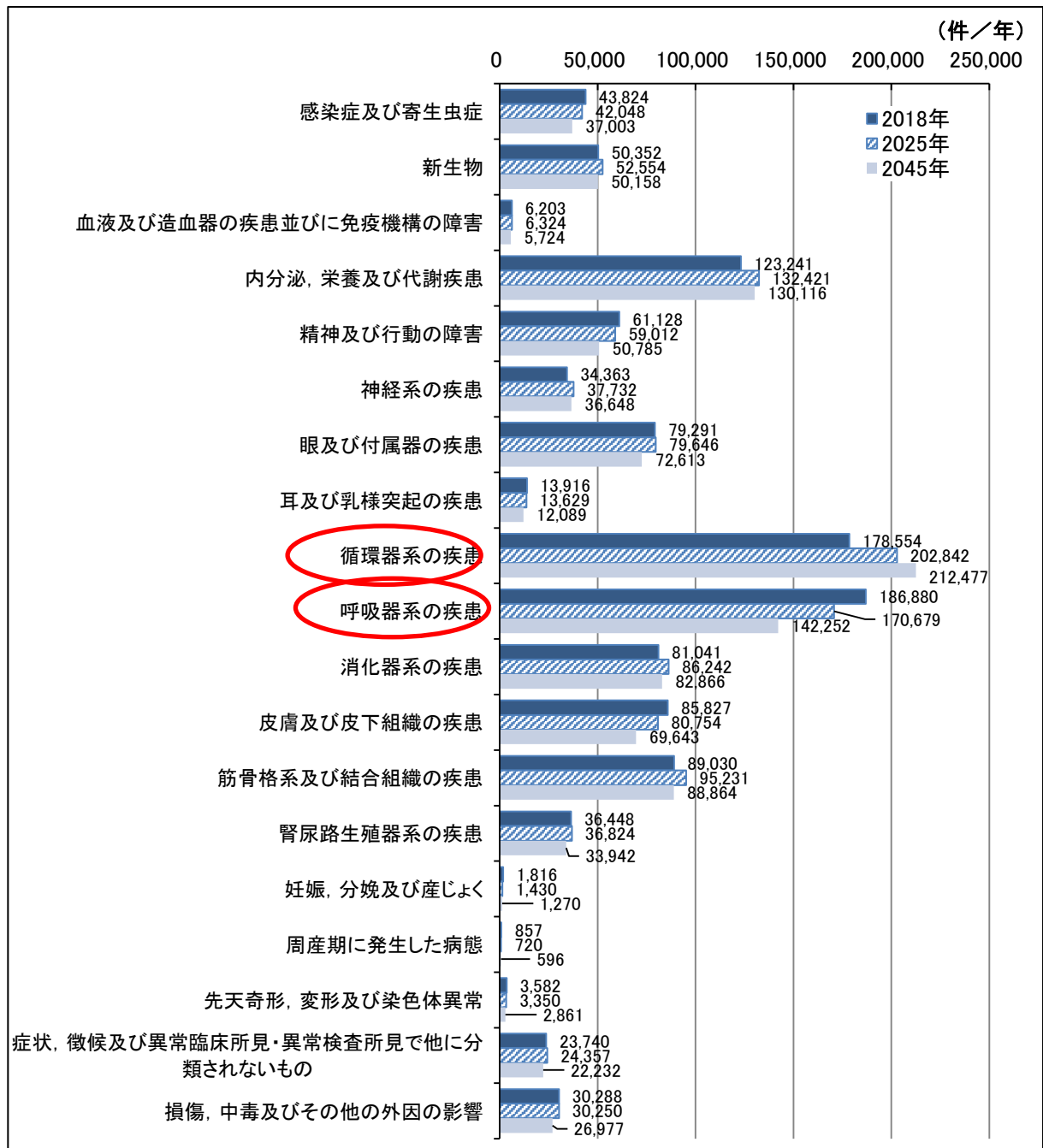
図表3-23 疾患別の推計入院レセプト件数



出典)多摩市版地域医療連携構想に向けたデータ分析

次に疾患別の入院外レセプト件数(2018年)の内訳をみると、「呼吸器系の疾患」が186,880件と最も多く、次いで「循環器系の疾患」178,554件、「内分泌、栄養及び代謝疾患」が123,241件なっています。2020年に「循環器系の疾患」が呼吸器系の疾患を上回り、2045年には2018年比で2割増加する見込みであるほか、神経系の疾患も2045年には2018年から増加するとみられます。(図表3-24)

図表3-24 疾患別の推計入院レセプト件数



出典)多摩市版地域医療連携構想に向けたデータ分析

2) 在宅医療の将来需要推計

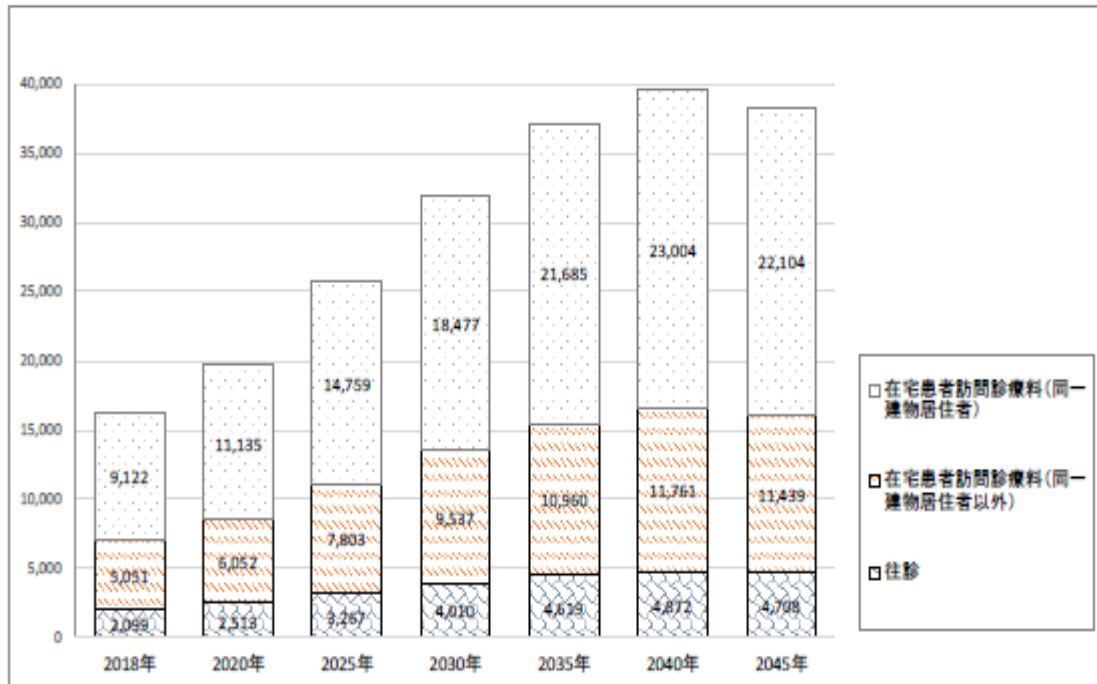
在宅患者の訪問診療料の同一建物居住者は 142.3%の増加見込み、また同一建物居住者以外は 126.5%増加見込みです。併せて往診については、124.3%増加することが見込まれており、在宅医療の増加に対応していくための対策が必要です。(図表3-25)

図表3-25 在宅医療の将来推計

期間：平成29年4月～平成30年3月

単位：件/年

在宅関連の診療行為	2018年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2025年 /2018年	2045年 /2018年
計	16,272	19,699	25,830	32,024	37,264	39,637	38,252	158.7%	235.1%
在宅患者訪問診療料（同一建物居住者）	9,122	11,135	14,759	18,477	21,685	23,004	22,104	161.8%	242.3%
在宅患者訪問診療料（同一建物居住者以外）	5,051	6,052	7,803	9,537	10,960	11,761	11,439	154.5%	226.5%
往診	2,099	2,513	3,267	4,010	4,619	4,872	4,708	155.7%	224.3%



多摩市 国民健康保険 後期高齢レセプトデータ 平成29年度診療分および国立 社会保障人口問題研究所 『日本の地域別将来推計人口（平成30年度推計）』より推計

出典)多摩市版地域医療連携構想に向けたデータ分析

今後、高齢者のひとり暮らしや高齢者のみ世帯の割合の増加に伴って、生活支援や見守りなど、地域福祉のニーズが高まることが想定されます。「健幸都市」の実現のためには、市民が健康的な生活習慣を獲得しやすい環境や、主体的に地域や社会とつながりを維持できる環境づくりとともに、地域の福祉ニーズを踏まえた仕組みづくりやサービスの創出が求められています。

市は、誰もが自分らしくいきいきと暮らすまちを目指して、市民、NPO 団体、事業者、大学等と協働・連携しながら、まちぐるみで健幸まちづくりを進めていきます。